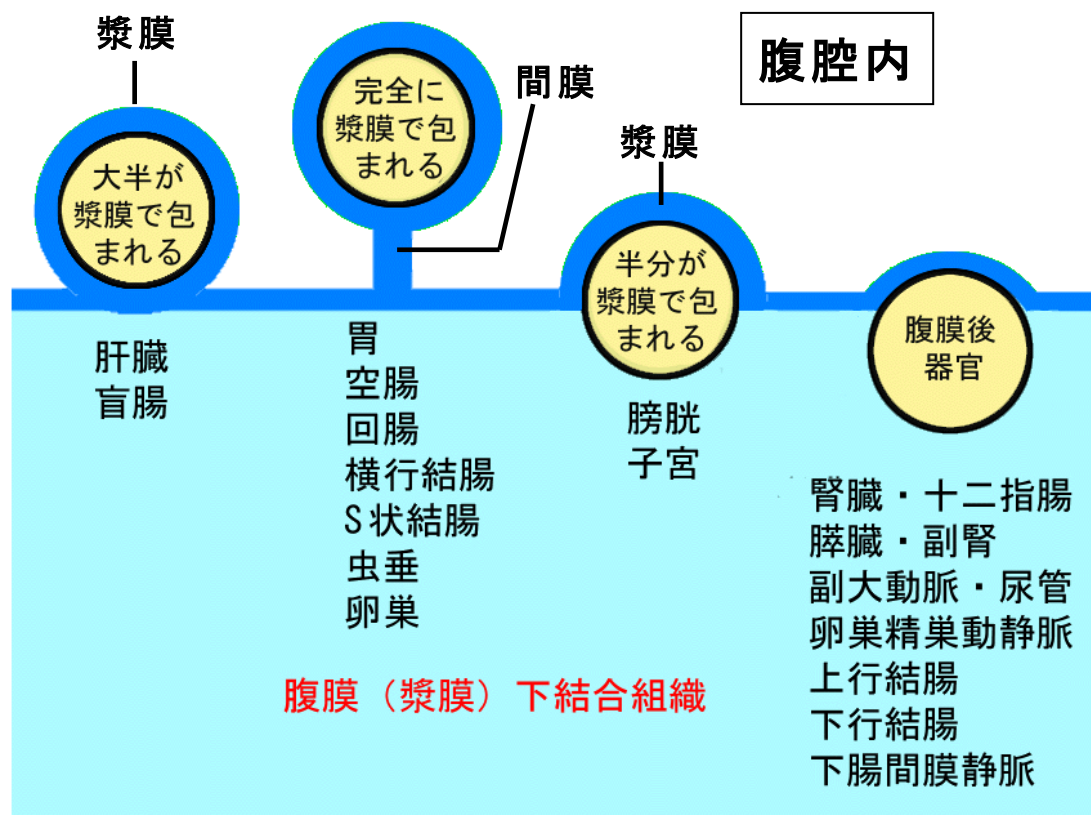


腹腔臓器の位置と漿膜との関係



腹腔内の臓器は漿膜によって表面が被われ、上記のように様々な方法で腹壁に固定されます。漿膜上皮は単層の扁平上皮（中皮細胞）からなりますが、その下の結合組織を含めて腹膜と呼ぶ場合があります。各臓器は図の左側から

- ① 大半が漿膜に被われながらも、無漿膜部（野）のあるもの。
- ② 臓器の全体が漿膜の裏表の二重膜に被われる（間膜をもつ）もの。
- ③ ほぼ半分が被われて、半分が漿膜下にあるもの。
- ④ 臓器の全体が漿膜下（腹膜下）にあるものに区別されます。

いわゆる腹膜下後器官とは④腹膜下に位置する器官で、全体が腹膜下にあることから、腹腔内の臓器と区別されます。これらは各臓器の腹壁への固定の違いと言えます。

また、腸管の蠕動運動のように腹腔内で運動性のあるものは全体が漿膜に包まれる間膜からなっています。（胃、空腸や回腸、横行結腸、S状結腸など）